

平成29年度

事業報告書

～“おたがいさん”の心でつくる 温かいまち彦根～

【目次】

1. 総括	1 頁
2. 事業報告	
重点項目 地域福祉推進事業の充実と推進	3 頁
1) 地域福祉活動計画推進事業	3 頁
(1) 地域福祉推進委員会の開催	3 頁
(2) 住民福祉活動計画の推進	3 頁
2) 学区（地区）社協活動推進事業	4 頁
(1) 学区（地区）社協会長会の開催	4 頁
(2) 学区（地区）社協活動の推進に向けた助成の実施	5 頁
3) 生活支援コーディネーター設置事業	7 頁
(1) 第2層ネットワーク会議（小地域協議体）の設置および開催	7 頁
(2) 社会資源情報の継続的な収集および情報冊子の作成	7 頁
(3) 地域の困りごとの発掘と住民主体の新たな活動（居場所、生活支援等）の立ち上げ支援	7 頁
(4) 地域の担い手づくり事業（サロン交流会の開催）	7 頁
4) 見守り合い活動推進事業	8 頁
(1) 自治会向け地域見守り合い活動の推進助成の実施	8 頁
(2) あいさつプラスOne運動の展開	8 頁
(3) 移動・外出支援用車両「おたがいさんさん号」の貸出	8 頁
(4) 「フードバンクひこね」の立ち上げおよび運営	9 頁
5) 子ども・若者支援事業	10 頁
(1) 地域の社会資源を活かした子どもの居場所づくり	10 頁
(2) 「子ども・若者の居場所づくり活動者交流会」の開催	11 頁
(3) 「ベビー&キッズ用品リユース～かえっこ～」の開催	11 頁
(4) 制服・体操服等の無料リユースの実施	11 頁
(5) 若者の仲間づくりを応援する「カフェ・ド・ふれ」の実施	11 頁
6) みんなの地域づくり推進事業	12 頁
(1) 「おたがいさんサポーター養成講座」および「まなびあい講座「わたし+（プラス）」の開催	12 頁
(2) 地域活動『丸ごと』連携会議・ひこね市民活動交流会&ワークショップの開催	12 頁
(3) 福祉の出前講座・福祉教育の実施	13 頁
(4) ボランティアに関する相談・情報提供	14 頁
(5) ボランティアグループ・福祉団体の活動の推進	14 頁
(6) 地域見守り合い活動に関する協定締結および協力事業所の登録の推進	14 頁

(7) 空き家の活用方法の検討	15 頁
7) 災害に強い地域づくり推進事業	15 頁
(1) 防災にかかる出前講座および研修会の開催	15 頁
(2) 縁・支え合いの県民運動「えにしの日・えにし週間」における取組の 実施	16 頁
(3) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施	16 頁
(4) 災害時避難行動要支援者制度推進業務の実施	16 頁
重点項目 相談援助、生活支援活動の充実と推進	18 頁
1) 総合相談体制整備事業	18 頁
(1) 相談者等に対する支援の実施	18 頁
(2) 相談支援包括化ネットワークの構築	21 頁
(3) 相談支援包括化推進会議の開催	21 頁
2) 権利擁護事業	22 頁
(1) 地域福祉権利擁護事業の実施	22 頁
(2) 法人後見の受任に向けた検討	23 頁
3) 生活困窮者支援事業	23 頁
(1) 生活福祉資金貸付事業の実施	23 頁
(2) 生活つなぎ資金貸付事業の実施	24 頁
(3) 就職面接にかかる各種支援事業の実施	24 頁
(4) リ・ソート株式会社の協力による家電等の無料提供	24 頁
その他の地域福祉推進事業	26 頁
1) 老人福祉センター運営事業（彦根市指定管理者受託事業）	26 頁
(1) 南老人福祉センター運営事業	26 頁
(2) 北老人福祉センター運営事業	27 頁
2) 彦根市社会福祉大会の開催	29 頁
3) 赤い羽根共同募金の活用による地域福祉事業の推進	29 頁
(1) 一般募金の活用による事業の実施	29 頁
(2) 歳末たすけあい募金の活用による事業の実施	30 頁
4) 善意銀行預託金の活用	31 頁
5) 福祉のまちづくり活動助成金の活用	32 頁
6) 小児難病救済基金助成事業	33 頁
7) その他の事業	33 頁
(1) 車椅子貸出事業	33 頁
(2) ボランティア保険加入促進事業	33 頁
(3) 「ふくしの店」設置事業	34 頁

重点項目	介護保険、障害福祉サービスの充実	35 頁
1)	在宅介護課事業（介護保険・障害福祉サービス事業）	35 頁
	（1）居宅介護支援（ケアマネジメント）事業	35 頁
	（2）訪問介護（ホームヘルプサービス）事業	36 頁
	（3）通所介護（デイサービス）事業	37 頁
2)	在宅介護課事業（彦根市地域包括支援センター運営事業）	40 頁
	（1）彦根市地域包括支援センター運営事業（ハピネス・ひらた・いなえ）	40 頁
重点項目	組織基盤の整備と強化	42 頁
1)	法人運営体制の充実	42 頁
	（1）理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催	42 頁
	（2）所轄庁による指導監査	44 項
	（3）彦根労働基準監督署による臨検	45 項
	（4）滋賀紛争調整委員会によるあっせん	45 項
2)	事務局体制の充実	45 頁
	（1）組織体制の整備	45 頁
	（2）専門家との連携および業務の省力化	45 頁
	（3）内部連絡会議の開催による連携体制の強化	46 頁
3)	一般会費・賛助会費による地域福祉推進財源の確保	47 頁
4)	職員の育成	47 頁
	（1）資格取得の推奨	47 頁
5)	広報事業	47 頁
	（1）広報紙「社協ひこね」の発行	47 頁
	（2）気軽に福祉関連情報を得ることができる場所の開拓	49 頁
	（3）広報委員会の開催	49 頁
	（4）電子メディアを含む情報発信の強化策検討	49 頁
	（5）広報紙への会員情報等の掲載	49 頁
	衣装貸付事業（収益事業）	50 頁
1)	衣装貸付事業	50 頁

この事業報告書は、実施した事業の内容をより分かり易くするため、本書に付属する明細についても取り込んで一体のものとして記載しています。

平成29年度 事業報告

1. 総括

高齢化や人口減少が進み、社会構造や人々の暮らしが大きく変化し、地域共生社会の実現が共通課題となる中、彦根市社会福祉協議会が必要とされる役割を果たしていくため、その陣容を整えるべく平成28年度に続き彦根市から積極的に業務を受けました。

まず、「我が事・丸ごとの地域づくり推進事業」を受託し、多機関の協働による包括的支援体制の構築をめざし、兼務ではあるものの相談支援包括化推進員2名を配置し、なんでも相談会の開催、多分野にまたがる相談機関の連携体制の構築、相談支援包括化推進会議など相談体制の構築に着手するとともに課題等の整理を行いました。

また、地域力強化推進事業として地域づくりボランティアコーディネーター1名を配置し、ボランティア養成講座の開催、ニーズへのマッチング作業、福祉講座、ボランティアグループの立ち上げ、サロンなどの住民主体の活動への支援などを行いました。

次に、生活支援体制整備事業では、新たに生活支援コーディネーター1名を増員配置し、総勢7名体制により日常生活圏域における協議体の設置と開催、地域資源情報の収集・発信、地域のサロン活動などへの支援、学区社協や地域の民生委員等との連携強化に努めました。

次に、「子ども・若者を応援するひとづくり・地域づくり事業」を受託し、子ども・若者支援コーディネーター1名を配置し、途中、職員交代を挟みながらも、子ども食堂、フリースペースなどの子ども・若者を応援する人や仕組みへの支援、情報の収集、地域のネットワークづくり、フードバンクの立ち上げ、学用品等のリユース活動を行いました。

次に、地域包括支援センター業務については、地域包括支援センターハピネスのランチ(出先)として位置付けのハピネスひらたが、中央中学校区を担当エリアとする独立した「地域包括支援センターひらた」として7月1日から業務を開始しました。このことにより市内の地域包括支援センターは計6箇所となり、うち3箇所を本会が運営することとなりました。また、専門職員が1名増員とされたことから、地域包括支援センターいなえには4月1日付で、地域包括支援センターひらたは雇用の関係から9月1日付でそれぞれ増員配置し、同時に包括ひらたには管理者として課長級職員を置いて体制を整えました。なお、地域包括支援センターハピネスは、市の基準により増員はありませんでした。

次に、6月1日付けでたちばな法律事務所との間に法律顧問契約を、7月1日付けで樋口社会保険労務士との間に業務委託契約を締結しました。これらはいずれも本会として業務の遂行上専門的な助言・指導等が必要不可欠なことによるもので、併せて、前者は無料法律相談(月1回、毎月第3木曜日)の実施により利用者が法的なアドバイスを受けられる機会の提供、後者は労務の負担軽減という側面をもち、法人運営の諸課題や業務の専門化・複雑化に対応してまいりました。

その他本年度特筆すべきこととして、北老人福祉センターの指定管理者としての運営を所長以下2名体制で開始したこと、敬老事業について各学区(地区)社協の協力のもとで本会が実施していくこととしたこと、善意銀行ボックスの設置協力店が100店舗を達成したこと、共同募金の一般募金における募金グッズとして「ひこにゃんバッジ」を製作しバッジ募金を

復活させたことなどを挙げるができます。

こうした本会の積極的な活動や取組に対する評価が、全国社会福祉協議会による優秀社会福祉協議会としての表彰や、地域共生社会フォーラムにおける実践PR映像作品の表彰へ繋がったものと考えています。

しかしながら、一方で、貸衣装事業の収益が2年続けて減少していること、滋賀紛争調整委員会によるあっせんが行われたこと、労働基準監督署の監督指導により違法な時間外労働があったとして是正勧告を受けたこと、さらにはそのほとんどが軽微な物損事故であるものの職員の交通事故が多く発生したことは、反省すべき点であり、今後の改善すべき事項として取組を強化するとともに職員の意識改革をはじめ労働環境の改善等が求められています。

最後に、平成30年度からの権利擁護サポートセンター業務の受託に伴う定款の変更については、平成30年1月16日付けで彦根市の認可を受けております。

2. 事業報告

重点項目 地域福祉推進事業の充実と推進

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：地域福祉推進事業

1) 地域福祉活動計画推進事業

(1) 地域福祉推進委員会の開催

平成27年3月に策定した「彦根市地域福祉活動計画」を指標とした地域福祉の推進を図り、身近な生活圏域でのニーズ把握や課題解決への取組を継続して推進した。

具体的には、担当職員によるワーキンググループを設置し協議・検討を行うとともに、外部委員による推進委員会を開催し、平成28年度の実績報告および平成29年度の計画の進捗管理および外部評価を実施し、事業内容の見直し等を行った。

また、平成29年度で計画策定から3年が経過したことから、推進委員会において、社会情勢の変化や取組の進捗状況等を踏まえた計画の中間見直しを行った。

- ・ワーキンググループ会議の開催 (3回)
- ・地域福祉推進委員会の開催 (2回)

第1回委員会開催日：平成29年6月26日(月)

第2回委員会開催日：平成30年2月16日(金)

開催場所：市福祉センター別館2階 集団健診室

(2) 住民福祉活動計画の推進

「学区(地区)住民福祉活動計画」の推進を目的とした推進会議を開催し、優先的に取り組んでいくべき事柄の決定や各学区(地区)における推進方法について協議するとともに、計画に基づく研修会や学区単位でのサロン交流会の開催などを行い、計画の推進に取り組んだ。

- ・「学区(地区)住民福祉活動計画」推進会議(全83回 ※関係会議含む)
- ・延べ参加者人数(1,562人 ※関係会議含む)

○住民福祉活動計画推進事業助成金を活用した取組

学区(地区)	実施内容	計画の該当項目・目標
城東北部	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内の活動者が一堂に会する情報交換会を開催し、学区内の「地域福祉活動」を見える化したマップを作成 ・『おたがいさんサポーター講座 in 城東』を企画 ・マップとチラシを全戸配布 	人と人がいきいき交流できるまち(地域を支えるボランティア活動をこれからも続けていこう)
城東中部		地域発掘のために人材を活かそう
城東南部		地域を支えるボランティアを育てよう
城西	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史再発見 城西史跡めぐり ・あいさつ運動 	活気があふれるまち ふれあい、いたわりあうまち
城南	<ul style="list-style-type: none"> ・ときめく未来通信の発行(住民福祉活動計画の周知、学区内のサロンの情報を紹介) 	熟年高齢者がくらしやすいまち 城南
城北	<ul style="list-style-type: none"> ・学区内の取組をまとめた「城北つながりガイドブック」を作成し、全戸配布 	小さな輪(つながり)から大きな和(つながり)へ

旭森	・各自治会のボランティア57名が参加し、サロン活動の維持から拡充に向けた学習・研修会を開催	「あいさつ」でつながり、安心できる「見守り」と楽しい「居場所」づくり（いつでも誰もが集える楽しい居場所づくり）
多景	・あいさつ運動の啓発シールを作成し、3町各自治会の回覧板に貼り、地区全体へ浸透	フェイス to フェイス 回覧板は手渡しで回そう
花田	・高齢者と子どもの多世代交流（コマの絵付け、凧の制作等）	若者たちが住み続けたいなるまち もどってきたくなるまち みんなで話し合い 協力し合えるまち 自然と共に生きるまち
金城	・サロンスタッフ、自治会役員、民生委員、福祉委員を対象にしたサロン交流会および研修会の開催	息長く続く「サロン活動」
鳥居本	・サロン交流会 in とりいもと ・さんあか通信（広報誌）発行 ・子育て世代との交流会	誰でもいつでも行ける”心地良い”場づくり 子育てがしたくなるまちづくり
高宮	・「プラタカミヤ“高宮再発見まち歩き”」を開催（小学生に参加してもらい、60年前の高宮を散策（全3回））	永く続く地域の行事を”世代間交流”の場に活かそう
稲枝	・あいさつプラスOne運動の標語募集を小学校、中学校、一般の部で実施 ・作品を社協だより等へ掲載し、あいさつ運動を広く啓発	ふだんから顔と目を合わせてコミュニケーション 各地区・各種団体で「笑顔であいさつ・プラスOne運動」の展開

2) 学区（地区）社協活動推進事業

(1) 学区（地区）社協会長会の開催

学区（地区）間における情報共有と相互連携を行うとともに、市社協および市等の関係機関からの情報提供等を定期的に行うことにより、各学区（地区）における地域福祉活動の推進と拡充を図ることを目的に、月1回定例の会長会を開催した。

開催日	主な付議事項
平成29年 4月21日	学区（地区）社協活動推進助成金の交付申請について 平成29年度社協会費の納入について 「地域づくりボランティアセンター」について ほか
5月19日	敬老行事開催にかかる名簿作成方法、対象者数等について 住民福祉活動計画推進に向けた助成金について 平成29年度「福祉のまちづくり活動助成事業」の実施について ほか 〈研修〉 彦根市社協「地域づくりボランティアセンター」の業務について ・おたがいさんサポーター ・福祉の出前講座 ・災害時避難行動要支援者制度
6月16日	平成29年度「彦根市社会福祉大会」表彰受賞候補者の推薦について 「見守り合い活動推進事業」の取組状況について 学区（地区）社協助成金の申請状況について ほか 〈研修〉 彦根市社協 子ども・若者支援について

	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂 ・フリースペース ・学び（学習支援）の場づくり ・子ども・若者の居場所づくり（「したいこと」を応援するカフェ カフェ・ド・ふれ） ・ベビー&キッズ用品～かえっこ～
7月21日	各学区（地区）社協の取組内容について 平成29年度学区（地区）社協活動推進助成金の交付について 敬老行事にかかる名簿の配布および取扱いについて ほか
8月18日	「赤い羽根共同募金」の現状およびこれからについて 「学区（地区）社協活動推進助成金」振込通知・実施報告書について 各学区（地区）住民福祉活動計画推進にかかる助成金について ほか
9月22日	平成29年度「赤い羽根共同募金運動」へのご協力について（お願い） 平成29年度『「歳末たすけあい運動」地域福祉事業』実施計画書の提出について 防災訓練（災害ボランティアセンター設置・運営訓練）の実施結果について 各学区（地区）における取組状況の共有について ほか
10月20日	平成29年度「彦根市社会福祉大会」概要および出務協力依頼について 各学区（地区）における取組状況の共有について ほか
11月17日	「社協ひこね第200号記念号（H30.2.1号）掲載記事について 当会ホームページの学区（地区）社協情報の提供について 各学区（地区）における取組状況の共有について ほか
12月15日	システム変更に伴う敬老事業対象者照会名簿の様式について 平成29年度彦根市社会福祉大会の振り返り 各学区（地区）における取組状況の共有について ほか
平成30年 1月19日	次年度事業の概要について 学区（地区）社協活動推進助成金の報告について <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき安心推進事業 ・敬老行事開催事業 ・学区（地区）社協広報啓発事業 ・地域支え合いモデル推進事業 3月定例学区（地区）社協会長会の日程および学区（地区）社協会長懇談会について 各学区（地区）における取組状況の共有について ほか
2月22日	〈外部研修〉 滋賀県社会福祉学会参加
3月23日	平成30年度定例学区（地区）社協会長会のスケジュールについて 学区（地区）社協活動推進助成金の報告 各学区（地区）における取組状況の共有について ほか

（2）学区（地区）社協活動の推進に向けた助成の実施

各学区（地区）社協の活動を一体的に推進することで、誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりを進めた。

◆いきいき安心推進事業助成

地域の福祉に対する住民の理解と関心を高め、高齢者・障害者・青少年などが安心して生活できる環境を整備していくため、各学区（地区）社協において、ふれあい給食や福祉講座等に取り組みながら、地域の担い手づくりの推進を図った。

ア. みんなを地域の中で大切に作る 意識づくり

介護や認知症、障がい、健康づくり、子育て、いじめ問題など地域の福祉課題への理解を深めるための各種福祉講座や福祉懇談会等を開催した。

実施回数 127回/人数 延べ3,852人

イ. みんなで孤立を見逃さない つながりづくり

住民相互の交流や閉じこもり予防、孤立の防止を目的としたふれあい活動（給食・会食）や料理教室、高齢者宅への訪問活動、あいさつプラスOne運動等を実施した。

実施回数 131回/人数 延べ5,896人

ウ. みんなが安心できる 居場所づくり

高齢者や障がいのある人、子育て世代などが定期的に気軽に集える場所としての地域サロンを開催した。

実施回数 166回/人数 延べ4,408人

エ. みんなが担い手みんなが参加する しゅみづくり

地域の困りごとの解決に向けた住民同士による生活支援のしゅみづくりを行う。

※実施社協なし

◆敬老行事開催事業

75歳以上の高齢者を対象に、敬老月間中に開催する各種の敬老行事に係る事業を行った。

実施社協数 19社協/参加者数 延べ9,210人

◆学区（地区）社協広報啓発事業

地域住民に対する福祉への関心や参加を図るための広報紙等の発行に係る事業を行った。

実施社協数 11社協/発行回数 24回

◆地域支え合い推進モデル事業

地域における住民同士の支え合いを目的としてモデル的に実施する事業を行った。

実施社協名	内容
平田学区社協	みんなの居場所 「憩いのサロン」の充実
日夏地区社協	「日夏町福祉文化祭」の開催（福祉委員・ボランティアの関わり促進・充実）
若葉学区社協	防災活動・福祉活動の推進に向けた「お隣さん」との情報共有ツール（啓発用回覧板の作成）
高宮学区社協	小地域福祉活動の展開
亀山学区社協	「亀山学区・防災訓練」研修

3) 生活支援コーディネーター設置事業

地域での支え合いを推進するため、地域支え合い推進員7名を配置し、以下の業務を行った。

(1) 第2層ネットワーク会議（小地域協議体）の設置および開催

各小学校圏域で協議体（住民福祉活動計画推進会議）を開催し、地域の活動者らと社会資源の情報の収集および共有、情報交換を行った。定期的な情報共有および連携強化の場として、中核となるネットワーク構築を図った。

○協議体 計46回 / 延べ741人

○関連事業 計37回 / 延べ821人

(2) 社会資源情報の継続的な収集および情報冊子の作成

地域における支え合いに関連する地域資源情報（居場所、生活支援（配食・宅配・訪問等の各種サービスなど））について、地域に出向いて情報収集を行った。また、下記の冊子を作成した。

○買い物おたすけ本 3,000部作成

事業所や店舗を回り、宅配等の買い物情報の募集について呼びかけ、情報を収集した。これらの情報を冊子にまとめ、民生委員やケアマネジャー等関係機関、高齢者等へ配布した。

○サロンプチおたすけ本 300部（増刷）

(3) 地域の困りごとの発掘と住民主体の新たな活動（居場所、生活支援等）の立ち上げ支援

自治会単位（第3層）における「見守り合い活動」の振り返り会を通して、地域生活課題や不足する資源等を“見える化”し、地域活動の関係者と情報共有を行いながら、小地域での課題の共有および課題を解決する力やネットワークを養えるよう支援した。

また、地域にとって必要な活動を住民主体で行っていくための立ち上げ支援を行った。

○住民主体の新たな活動の立ち上げ 25件

例) 地域サロン、ちょいボラ等の生活支援、地域の見守り合い活動等

(4) 地域の担い手づくり事業（サロン交流会の開催）

地域における「見守り合い活動」や「居場所づくり」など、生活支援体制整備に向けた活動を行っている団体（自治会等）の活動の活性化を図るとともに、新たな活動の立ち上げおよび定着に向け、『サロン交流会』を開催した。

○サロン交流会

開催日	内容	講師等	参加者数
第1回 7月24日	「コミュニケーションについて」 上手な人との関わり方をするには？	福井県立大学 看護福祉学部 准教授 吉弘 淳一さん	45名

第2回 9月26日	「サロンのい・ろ・は」 マンネリ化・担い手問題にお困り の方	あそびの工房もくもく屋 田川 雅規さん	45名
第3回 11月28日	サロン見学会(市内2カ所)	・宅老所「なごみ」 ・えんがわ喫茶	20名
第4回 12月4日	サロン体験会(市内2カ所)	・田原町『どーむ』 ・正法寺町ボランティアサークル	31名

4) 見守り合い活動推進事業

住民主体による見守り合い活動を実践する自治会に出向き、自治会単位での活動の立ち上げ支援や定着および拡充の支援を行った。

(1) 自治会向け地域見守り合い活動の推進助成の実施

市内において住民主体による地域サロンや友愛訪問等に取り組む自治会を対象に、見守り合い活動の立ち上げおよび拡充ならびにスタッフ等関係者による見守り会議の開催に対し助成金を交付することにより、市内における見守り合い活動の定着および拡充を図った。市内自治会を対象として「見守り合い活動推進事業」への助成を行い、市内25自治会で取組を推進した。

[H29年度の学区別自治会実施結果]

学区	申請数	学区	申請数	学区	申請数
城東	0	旭森	1	河瀬	3
城西	3	城陽	0	亀山	2
城南	0	若葉	2	稲枝	8
平田	2	金城	0	計	25自治会
城北	2	鳥居本	1	うち	新規12自治会
佐和山	1	高宮	0		

(2) あいさつプラスOne運動の展開

「あいさつプラスOne運動」への参加を呼びかける啓発キャンペーンの実施に向け、滋賀大学経済学部と協働で作成した「あいさつプラスOne運動」のポスター（A3サイズ）を市内に配布した。

配布先：学区（地区）社協、自治会、学校・園、公共施設、福祉施設など

配布数：計419部

(3) 移動・外出支援用車両「おたがいさんさん号」の貸出

住民の地域での生活を豊かにし、元気な生活を応援するとともに、様々な生活支援の一環とすることを目的に、地域のサロンや子ども食堂等の送迎に利用できる移動・外出支援用車両「おたがいさんさん号」の貸出を行った。

車種：トヨタノア（7人乗り）、カーナビ、ドライブレコーダー・バックモニター装備、

サイドリフトアップシート機能あり ※滋賀中央信用金庫より寄贈
 利用方法：利用料は原則無料（50kmを越えて利用される場合は料金が必要）、期間は原則一日以内、個人・団体（事業者除く）で利用可 ※利用要件があるため事前の申請要
 貸出状況：28件（サロンや子ども食堂の送迎など）

(4)「フードバンクひこね」の立ち上げおよび運営

「食品の“もったいない”の削減」および「困ったときは“おたがいさん”の地域づくり」を目的に、平成29年11月に『フードバンクひこね』を設立し、本格実施に向け、より広く理解と協力を得るため、次の通りモデル事業を実施した。

活動拠点：彦根総合地方卸売市場内・特設スペース

対象食材：米、野菜（日持ちのするもの）、加工食品（概ね1ヶ月以上の賞味期限のあるもの）など ※日持ちのしない野菜や生鮮品などは対象外

運営母体：社会福祉法人彦根市社会福祉協議会

運営協力：彦根市民有志（登録ボランティア16名）

実施内容：個人、農家などから不要となった食材を回収し、彦根総合地方卸売市場内の特設スペースに保管。集まった食材は、運営スタッフが仕分け作業をするなどの管理を行った。

月に2回（第2、第4土曜日）特設スペースを開放し、子ども食堂運営団体等が無料で食材を確保できるようにしたほか、生活困窮者に対しては随時もしくは緊急の支援を行った。

賞味（消費）期限が近くなった食品は、フリーフードマーケットというチャリティバザーを開催し、運営に必要な経費として寄付金を募った。

〔寄付者の状況〕

区分名	件数（人・団体）
個人	31
団体（農業関係）	2
団体（福祉関係）	4
団体（小売店等）	1
団体（その他）	4
その他（イベント等）	2
合計	44

〔寄付食材（分類品目）〕

区分名	件数（品数）
米（玄米、白米、もち米）・小麦粉類	25
乾麺類（パスタ、うどん、そば、素麺）	6
インスタント・レトルト・ふりかけ類	36

調味料類（味噌、醤油、砂糖、食用油等）	14
缶詰・瓶詰類	7
乳幼児食品類（離乳食、粉ミルク等）	0
菓子・飲料類	28
野菜、果物類	18
合計	134

〔食材提供先の状況〕

区分名	件数（品数）
居場所活動（子ども関係）	29
居場所活動（高齢者関係）	8
居場所活動（その他）	2
困窮者	22
フリーフードマーケット	10
合計	71

5) 子ども・若者支援事業

食事や学びを共にすることで子どもが地域との交流やふれあいを図ることができる場、課題を抱え地域とのつながりが閉ざされている子どもが一步立ち寄れる場など、子どもが安心して気軽に立ち寄ることができる地域の身近な居場所を増やすとともに、担い手としても老若男女を問わず地域の大人が参画できるよう、子ども若者支援コーディネーター1名を配置し、下記の事業を行った。

(1) 地域の社会資源を活かした子どもの居場所づくり

「食事」を通じた地域の居場所として、滋賀の縁創造実践センターのモデル事業である“子ども食堂”の取組を引き続き推進したほか、新たに「学び」を通じた地域の居場所を市内で増やしていくことを目的に、平成29年11月に本市独自に助成金制度を新設し、様々な居場所づくりの取組の推進を図った。

また、困難を抱える世帯の子どもの夜の居場所として、市内の福祉施設で実施している“フリースペース”について、引き続き本会が実施主体となり、ボランティアの調整や関係者会議の開催等を行うとともに、新たに2箇所目を開設した。

◆「食事」を通じた地域の居場所／子ども食堂 市内6箇所（1箇所新設）

e 一場所～あなたの良い場所・居場所 平成29年7月～ 開始

◆「学び」を通じた地域の居場所 市内1箇所新設

ふらっとDO 平成30年2月～ 開始

◆困難を抱える世帯の子どもの夜の居場所／フリースペース 市内2箇所（1箇所新設）

フリースペース「さざなみ」 平成29年5月～ 週1回開催

(2) 「子ども・若者の居場所づくり活動者交流会」の開催

市内における子ども食堂や学びの場の活動実践者、これから活動を考えている人を対象に、活動者同士の顔の見える関係づくりをめざし、交流会を開催した。

交流会では、互いの活動内容や情報の共有を図る中で、「活動の輪を広げるために、どんな取組が必要か」「予想される課題への解決方法」などを話し合い、居場所づくりの活発化と継続の推進を図った。

開催日：平成30年1月30日（火）／参加者数 30名

（3）「ベビー&キッズ用品リユース～かえっこ～」の開催

「必要としている人に必要とされているものを届けたい」という思いから、まだまだ使えるベビー用品やキッズ用品を無料で交換できる場をつくり、子育て世代の親子の交流の機会とリユースを通じた困窮家庭への支援を進めていくことを目的に、本会とHot Hot～ほどほど～の共催により、「ベビー&キッズ用品リユース～かえっこ～」を開催した。

また、リユース品を必要とされている方へ情報が届き、リユース事業当日に会場へ来ていただけるよう、民生委員児童委員や市関係課の協力により、対象となる世帯への声かけおよびパスカード（無料券）の配付を行った。

第1回開催日：平成29年 6月10日（土）

開催場所：子どもセンター

第2回開催日：平成29年11月11日（土）

開催場所：市福祉センター別館2階

第3回開催日：平成30年 3月24日（土）

開催場所：市中地区公民館

参加者数：延べ約1,000人

パスカード（無料券） 配付数 274枚（うち実利用数 5枚）

（4）制服・体操服等の無料リユースの実施

新たに制服・体操服等を購入することが困難な家庭や就学援助制度申請予定家庭などを対象に、寄付による在庫数が多い学区に限定し、「制服・体操服等の無料お渡し会」を本会とHotHot～ほどほど～の共催により開催した。

開催日：平成30年2月17日（土）・2月18日（日）

利用世帯：4組

（5）若者の仲間づくりを応援する「カフェ・ド・ふれ」の実施

普段の生活の中で何かしらの生きづらさを抱えた若者（15歳～40歳ぐらいまでの方）やその家族を対象とした「カフェ・ド・ふれ」事業を、毎月第3日曜日に、城西学区にある「イノベーションオフィス納屋七」にて引き続き実施した。

計12回開催／参加者数 延べ76名

〈会計の区分〉

拠点区分：法人運営事業／サービス区分：地域づくりボランティアセンター事業

6) みんなの地域づくり推進事業

(1) 「おたがいさんサポーター養成講座」および「まなびあい講座「わたし^{プラス}」」の開催
地域でのおたがいさんの見守り合いの意識向上から具体的な活動（ボランティア活動）
へとつなげていくことを目的に、次の各講座を開催した。

◆おたがいさんサポーター養成講座

開催日時：平成29年 5月30日（火）13:30～15:30 参加者：15名

平成29年10月25日（水）13:30～15:30 参加者：20名

開催場所：各日共に福祉センター別館2階

内容：「おたがいさんの見守り合い」

地域で安心してくらすために… 見守り合いのポイント探し

◆まなびあい講座「わたし^{プラス}」

おたがいさんサポーター養成講座を受けた方を対象にしたステップアップ講座（全
9回）を開催した。

開催日	テーマ	参加者数
平成29年 6月21日（水）	「わたしのボランティア活動」	24名
平成29年 7月24日（月）	「コミュニケーションについて」	29名
平成29年 8月26日（土）	「彦根市防災訓練 ボランティア体験」	22名
平成29年 9月26日（火）	「サロンのいろは」	25名
平成29年10月 6日（金）	「認知症について」	23名
平成29年11月30日（木）	「傾聴について」	23名
平成29年12月21日（木）	「送迎ボランティアについて」	13名
平成30年 1月30日（火）	「子どもは地域で育つ」	26名
平成30年 2月27日（火）	「地域の支え合い・助け合い」	29名

開催場所：福祉センター別館2階

(2) 地域活動『丸ごと』連携会議・ひこね市民活動交流会&ワークショップの開催

様々な分野で活動する団体・個人が日頃の活動や課題について話し合い、共有するこ
とで活動がさらに推進できるよう、関係機関とのネットワーク会議やひこね市民活動セ
ンターとの共催による交流会およびワークショップを実施した。

◆地域活動『丸ごと』連携会議

開催日時：平成29年7月7日（金）13:30～15:30

開催場所：彦根市市民交流センター

内 容：関係機関とのネットワーク構築について

参加者数：10名

◆ひこね市民活動交流会&ワークショップ

開催日時：平成30年1月26日（金）18：30～20：30

開催場所：銀座芝居小屋

内 容：ワークショップ

「市民のチカラは地域のタカラ！

～地域でボランティアや市民活動をもっと広げていくためには？～」

参加者数：16名

(3) 福祉の出前講座・福祉教育の実施

◆地域向け講座

住民や団体へ地域見守り合いや認知症、防災などに関する学びの機会を提供し、より一層地域の福祉活動を推進していくことを目的に、行政や地域包括支援センター等と連携しながら出前講座を開催した。

開催回数：全49回 参加者数：延べ1,431人

メニュー 対象	地域 見守り合い	認知症 介護	防災	健康 づくり	子ども 若者	障害理解	福祉学習
自治会	6	3	1	1	1	0	4
老人会	9	2	0	1	0	0	1
学区社協	3	2	1	0	1	2	2
ボランティアG	2	1	0	0	0	0	1
その他	1	0	1	0	1	1	1
小計	21	8	3	2	3	3	9

合計：計49回

◆学校向け講座

市内の小学校や中学校において取り組まれる福祉学習について、体験プログラムの相談や講師の調整等を行い、障害や高齢等のテーマだけでなく、福祉そのものを通じた一人ひとりが大切にされる福祉教育・学習に、学校や当事者、福祉団体等と共に取り組んだ。また、福祉教育の参考教材として、「福祉教育ハンドブック『夢、広がる!! つながり福祉“共”育』」を作成し、市内の各小中学校へ配付した。

開催回数：全49回 参加者数：延べ3,939人

(実施内容)

当事者、社協職員の講話：17回 車いす体験：10回

アイマスク体験：8回 点字体験：5回

聴覚障害者理解教育：9回

(対象)

小学校：12校 中学校：2校 大学：1校

◆事業所向け講座

開催回数：1回 参加者数：20人

(4) ボランティアに関する相談・情報提供

◆地域づくりボランティアセンター情報誌「～ここから～通信」の発行

平成30年3月発行 市内全戸配布

◆ボランティアグループ登録状況（平成30年3月31日現在）

登録グループ数 38団体（所属人数 983人）

個人登録者数 8人

◆ボランティア相談、需給・調整

（内容別）

内容	件数
活動相談	22
ボランティア調整	60
福祉教育・学習	23
その他の相談(助成金等)	30
合計	135

（受付先別）

受付先	件数
市民	33
学校	20
施設	28
企業	2
ボランティア	7
団体	41
行政	8
合計	139

◆ペットボトルキャップ収集協力

障害福祉サービス事業所「セルフひこね」が、環境問題・リサイクルに対する意識の啓発として、また、施設に通われる障がいのある利用者の仕事・給料保障の環境として取り組まれるペットボトルキャップ回収事業に協力した。

回収個数：約71,000個（H29.4.1～H30.3.31）

(5) ボランティアグループ・福祉団体の活動の推進

自発的な思いにより活動へ参加し趣味や特技を生かしたり、自らの知識を養いながら地域の課題解決に取り組んだりしているボランティアグループや、当事者同士・家族同士のつながりづくりや相談の場づくり、よりよい地域社会づくりに取り組む福祉団体に対し、それぞれ活動への助成を行った。

◆ボランティアグループ活動助成事業

助成グループ数 15団体 助成金額 403,000円

◆福祉団体活動助成事業

助成団体数 13団体 助成金額 1,180,000円

(6) 地域見守り合い活動に関する協定締結および協力事業所の登録の推進

地域における孤立死や虐待、消費者被害等の生活課題の発生を未然に防ぎ、住民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりを実現してい

くことを目的に、彦根市内の事業者と本会の二者間で「地域見守り合い活動に関する協定」を締結した。

また、商品の配達や訪問サービス等を行っている小売店や事業所等に対し、見守り合い活動協力事業所への登録を推進した。

締結事業者：2事業所

滋賀中央信用金庫、有限会社渚タクシー（順不同）

協力事業所：15事業所

まいまいのいえ 移動美容まいまい、LIFE Partner にごはち、有限会社仲町米穀店、セツ美容院、瀬戸製茶、ニチイケアセンター大藪、ニチイケアセンター彦根、株式会社クラマツ、外町米穀店、有限会社魚浩、しかの商店、有限会社千黒商店、わんまいる 彦根営業所 稲枝きたむら、にこぼん 介護タクシー、釘平金物店（順不同）

（7）空き家の活用方法の検討

空き家所有者向けに市が実施したアンケート調査に併せて、福祉目的での利用の可否にかかる意向調査を実施するとともに、実際の活用に向けて「福祉版空き家バンク（仮称）」の仕組みについて検討を行った。また、学区ごとの住民福祉活動計画推進会議の場等において、空き家活用の検証を進めた。

これらを踏まえ、平成30年度に福祉目的での使用が可能な空き家の情報を整理し、地域における拠点づくりを進めていく中で活用を図っていく。

7) 災害に強い地域づくり推進事業

（1）防災にかかる出前講座および研修会の開催

災害に対する意識の向上と防災・減災活動を通じ、普段からの地域のつながり・支え合いの大切さや気になる人・要援護者支援について住民とともに考えるきっかけづくりとして出前講座および防災研修会を開催した。また、地域で実施される防災・減災の取組に協力・支援した。

・出前講座や研修会の開催

東山自治会 大藪町自治会 地蔵町自治会 日の出東自治会

亀山学区 佐和山学区 薩摩町防災福祉委員会&サロン

金城学区社協3者（自治会・民児協・社協）合同会議

北老人福祉センター地域支え合い出前講座

・野瀬町内会・西今町伊庭団地自治会における防災訓練への協力

・日夏ニュータウンⅡ期自治会における要支援者マップ作成への協力

・聖泉大学・彦根市連携講座「防災・福祉でつながる地域づくり」への参画

炊き出し訓練の実施・防災展示への出展

(2) 縁・支え合いの県民運動「えにしの日・えにし週間」における取組の実施

平成28年度に彦根市と福祉施設等との間で「福祉避難所」にかかる協定が結ばれたことを受け、実際の災害発生時を想定し平時において備えておくべきことを知ることを目的に、3.11のえにしの日・えにし週間の取組として、福祉施設および行政それぞれの立場での心構えについて学ぶ研修とグループディスカッションを、本会と彦根市の共催で実施した。

〔第一部〕講演研修

テーマ「要配慮者避難における福祉施設・行政の心構え」

講師 栗原 英文さん

〔第二部〕グループディスカッション

テーマ「いざという時に備えて 取組む視点・ポイント」

～福祉施設・行政それぞれの立場から～

各々の立場で取り組めることや課題について参加者で話し合いを行った。

参加者数：53名

(3) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

市地域防災計画に基づき、ひこね災害ボランティアネットワークや行政と連携しながら、発災後、円滑に災害ボランティアセンターの立ち上げ・運営が行えるよう、彦根市防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練に取り組んだ。

また、今年度、新たに「おたがいさんサポーター」が災害ボランティア体験として参加するなど、地域で活動する住民の参加を促進し、災害ボランティアセンターの周知に努めた。

実施日時 平成29年8月26日（土） 9時00分～11時00分

実施場所 彦根市立中央中学校

実施内容 被災ニーズの聴き取り・受付、災害ボランティアの受付、被災ニーズと災害ボランティアのマッチングおよびグルーピング、活動資機材の手配および配付等

参加者数 58名（災害ボランティア養成講座修了者、学区（地区）社協、おたがいさんサポーター、ひこね災害ボランティアネットワーク、彦根市社協職員ほか）

(4) 災害時避難行動要支援者制度推進業務の実施

高齢者や障害のある人など自身や家族の力だけでは安全な場所へ避難することが困難な人を対象に、地域の人の手助けにより避難できるようあらかじめ登録していただく制度として、彦根市から業務を受託し登録の推進を図った。

緊急時・災害時に力を発揮できるよう、平時からの住民相互や住民と地域の共助の仕組みづくりをめざして、民生委員児童委員、自主防災組織および自治会、学区（地区）社会福祉協議会などと連携し、住民同士の交流や住民相互の見守り合い・支え合いがで

きる地域づくりの活動に取り組み、制度の理解と協力意識の醸成に努めた。

業務内容

- ① 制度の周知・啓発
- ② 登録申請書の受付
- ③ 要支援者台帳の登録
- ④ 要支援者情報の提供
- ⑤ 登録事項の変更等
- ⑥ 要支援登録者、地域協力者、民生委員児童委員、自主防災組織および自治会との連絡調整等

登録者数 2, 433名（平成30年3月末日現在）

内新規登録者数：286名

重点項目 相談援助、生活支援活動の充実と推進

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：福祉総合相談事業

1) 総合相談体制整備事業

(1) 相談者等に対する支援の実施

複合的な課題を抱える相談者等（相談者本人およびその属する世帯全体）を支援するため、“困ったときは、まずは社協へ”という「相談の総合窓口（最初の相談窓口）」として、相談受付および支援体制を整備した。

相談支援包括化推進員の人数		2人	
新規 相談	新規相談件数	8050	4件
		ダブルケア	1件
		障害が疑われる者	5件
		ゴミ屋敷	0件
		その他	156件
	相談経路	支援対象者から直接	121件
		関係機関からの紹介	43件
継続 相談	新規相談のうち継続して支援している数	8050	1件
		ダブルケア	0件
		障害が疑われる者	1件
		ゴミ屋敷	0件
		その他	2件
	継続して支援した数のうち 終了した数	問題が解決した	3件
		状況が改善し関わらなくてよくなった	2件
		死去や連絡が途絶えた等	6件

※複数の事業にまたがる相談や匿名相談があるため、下記の各相談事業との相談件数（内訳や合計数）が一致しない。

◆複合的な課題を抱える相談への個別支援の実施

相談支援包括化推進員が中心となって、複合的な課題を抱える相談を、相談者本人もしくは各種相談支援機関から受け付け、内容に応じて関係機関との支援の連携および調整を行い、多職種・多機関連携による個別支援の実施を進めた。

○丸ごと相談の実施

- ・相談延べ件数 102件
- ・相談実人数 67人
- ・相談のつなぎ先

地域包括支援センター、ケアマネジャー、彦根市社会福祉課、彦根市子ども・若者総合センター、司法書士会、障害者支援施設、よりそいホットライン、地域生活支援センター、市社協の他制度

○なんでも相談会(ワンストップ型相談)の開催

複合的な課題を抱える高齢者・障がい者および支援者からの相談ニーズに対応するとともに、総合相談体制の整備に向けたネットワークづくりを進めるため、個別相談の随時対応とは別に、多職種・多機関連携の総合相談(ワンストップ型相談)の機会として定期開催した。

【高齢者・障がい者なんでも相談会 in 湖東地域】

開催日	相談件数	来場者数	場所	出務人員
平成29年9月25日	12件	13人	彦根市福祉センター	30団体 47人
平成29年11月23日	7件	10人	愛荘町立福祉センター -愛の郷	17団体 31人
平成30年3月3日	15件	23人	彦根市福祉センター	28団体 39人
計	34件	46人		延32団体 延117人

【主な相談内容】

相談内容	相談件数	相談内容	相談件数
借 金	4	財産管理	2
相 続	3	不 動 産	2
遺 言	3	契 約	2
成年後見	3	事 故	1
登 記	3	その他	20
消費者被害	3		

※その他は、生活、介護、就業、家族、人権、苦情、療育、仕事上の人間関係、離婚、生活保護、警察の対応、障害、税金等

主 催：彦根市社会福祉協議会(事務局)、愛荘町社会福祉協議会、豊郷町社会福祉協議会、甲良町社会福祉協議会、多賀町社会福祉協議会、彦根市(介護福祉課、障害福祉課、社会福祉課)、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
(計12団体)

協力団体：滋賀弁護士会、公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート滋賀支部、滋賀県社会福祉士会ぱあとなあ滋賀、一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター滋賀県支部、滋賀県社会保険労務士会、近畿税理士会彦根支部、彦愛犬地域障害者生活支援センターステップアップ21、地域生活支援センターまな、働き暮らしコトー支援センター、彦根公共職業安定所、滋賀県社会就労事業振興センター、滋賀県地域生活定着支援センター、権利擁護サポートセンター響、地域包括支援センターすばる、地域包括支援センターハピネス、地域包括支援センターひらた、地域包括支援センターゆうじん、地域包括支援センターきらら、地域包括支援センターいなえ、湖東健康福祉事務所彦根保健所、滋賀県社会福祉協議会 (計21団体)

◆多様な相談機会の確保に向けた体制および情報の整備

複雑多様化する相談ニーズに対応していくため、多様な相談機会を確保するとともに、支援が必要な方へ相談窓口の情報が行き届くように体制と情報の整備を進めた。

○「心配ごと相談」の定期開催

「どこに相談すればいいかわからない」という人の最初の相談窓口として、相談者の想いに寄り添い「聴く」ことを大切に取り組み、必要に応じて助言を行ったり、相談者の同意を得て関係機関に適切につなぐなど、心配ごとを軽減することで、「住み慣れた地域で誰もが安心して暮すことができる福祉のまちづくり」の実現を図った。

【相談所開設日】

相談種別	開設日	開設場所	開設時間	備考
心配ごと相談	毎週水曜日・金曜日	福祉センター本館	13時～ 16時	相談員6人

※「心配ごと相談出張相談」の新規開催 第2水曜偶数月(北老福)、奇数月(南老福)

【開所回数】 97回

【相談件数】 72件(内、来所相談40件、電話相談32件)

【相談内容内訳】延べ件数

相談内容	相談件数	相談内容	相談件数
生計	8	教育・青少年問題	0
消費生活	3	児童福祉	0
年金	2	一人親家庭	0
財産(相続)	6	身体障害児(者)福祉	1
仕事	2	知的障害児(者)福祉	1
住居	5	精神障害児(者)福祉	1
家族	27	高齢者福祉	8
地域	17	介護保険	0
結婚	3	事故関係	0
離婚	2	苦情	5
保健・医療	7	その他	19
人権	0	合計	117

【相談員研修会】

開催期日	研修内容	講師
平成29年 4月 3日	内部研修(年間テーマ決定等)	
平成29年 6月27日	第1回つながろう・つなげよう 相談機関交流会	滋賀県立大学人間看護学部 助教 馬場文氏
平成29年 8月23日	市町社会福祉協議会新任相談 担当職員・心配ごと相談所相談 員 法律問題研修会	弁護士 宮原務氏

平成29年 9月28日	第2回つながろう・つなげよう 相談機関交流会	滋賀県立大学人間看護学部 助教 馬場文氏
平成29年12月18日	第3回つながろう・つなげよう 相談機関交流会	滋賀県立大学人間看護学部 助教 馬場文氏

○「無料法律相談」の定期開催

弁護士による無料相談 第3木曜日（平成29年6月より開始）

【開所回数】 10回

【相談件数】 17件

【相談内容】

相談内容	相談件数	相談内容	相談件数
借金	4	地域福祉権利擁護	1
相続	3	審査請求	1
損害賠償	2	契約	1
不動産	1	詐欺	1
財産	1	パワハラ	1
生計	1	合計	17

○「相談機関窓口紹介名簿(暫定版)」の発行 100部作成

○生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、民生委員児童委員等との連携による相談のアウトリーチの実践 随時実施

(2) 相談支援包括化ネットワークの構築

複合的な課題を抱える相談者等の自立を支援するため、多職種・多分野の連携による相談対応を実施していくための「包括的な相談ができる体制づくり」を進めた。

◆多職種・多分野における相談機関の連携体制の構築

相談機関の相談員同士の顔の見える関係づくり、相談スキルアップ研修、ケース検討等を実施することにより、多職種・多分野における連携体制を構築した。

○つながろう・つなげよう相談機関交流会の開催

自機関の強み、他機関の強みを知り合おう!をテーマに相談機関交流会を開催した。

開催期日	参加機関数	参加者数	内容	講師
平成29年 6月27日	55	83	グループワーク形式	滋賀県立大学 人間看護学部 助教 馬場文氏
平成29年 9月28日	45	77	ブース出店形式	
平成29年12月18日	44	67	事例検討、まとめ	

(3) 相談支援包括化推進会議の開催

◆福祉総合相談窓口の設置に向けた検討

相談への個別支援の実践や相談支援機関からの聴き取り等を通して、まずは現状の相

談体制における課題整理を行っていき、相談機関で構成する「相談支援包括化推進会議」において、彦根市におけるめざすべき総合相談体制のビジョンや取組（機能や制度、体制づくり）や支援における役割、相談体制のモデルイメージ図を作成した。

来年度はモデル実施による検証を図り、市に対して提言していく予定。

「相談支援包括化推進会議」の開催 年4回

委員長：滋賀県立大学人間看護学部 助教 馬場 文氏

委員：法律、警察、就労、地域代表、福祉（高齢・障害・児童・子ども若者・生活困窮）の関係機関の代表者（12名）

	開催日	内容
1回目	平成29年 8月16日	滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課関宜幸氏講演 ほか
2回目	平成29年10月16日	彦根市における課題の整理 ほか
3回目	平成29年12月26日	めざすべき総合相談体制、彦根市福祉まると相談体制（たたき台） ほか
4回目	平成30年 2月19日	これまでの振り返り、モデル案の検討およびモデル試行に向けた課題整理

※上記のほか、小ワーキング会議を平成30年1月16日に開催

- ・彦根市における総合相談体制のビジョン＝めざすべき姿のポイント整理
- ・彦根市福祉まると相談体制（たたき台）の修正
- ・彦根市福祉まると相談体制（たたき台）の実現に向け、取り組むべき事項や役割等の整理

2) 権利擁護事業

(1) 地域福祉権利擁護事業の実施

介護保険をはじめとする福祉サービスは、自らがサービスを選択しサービス提供者と契約を結んで利用することになっているが、判断能力が十分でない方々は、自分で選択したり、契約をしたりすることが困難なため、適切な福祉サービスが受けられない場合が考えられる。そのような方々が、地域で安心して生活が送れるよう支援を行った。

(利用対象者)

認知症高齢者、知的障害者、精神障害者など判断能力が不十分な人で、福祉サービスの利用や手続きへの不安がある方や、本人が日常生活を営む上で必要であることについて、自己の判断で適切に行うことが困難であると認められる人

(支援内容)

○福祉サービス利用援助サービス

- ・福祉サービス利用における申込み、契約の代行・代理
- ・福祉サービス利用料金の支払代行

○日常的金銭管理サービス

- ・年金および福祉手当の受領に必要な手続

- ・ 公共料金等の支払
- ・ 日用品購入の代金支払手続
- ・ 預貯金の出し入れおよび解約手続

○書類等預かりサービス（銀行の貸金庫で保管）

- ・ 年金証書、預貯金通帳、実印、銀行印
- ・ 証書類（保険証書、不動産権利書、契約書など）

【29年度相談援助件数】

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	計
問合せ件数	23	3	2	2	30
初回相談件数	13	2	0	0	15
相談援助件数	1,503	2,213	2,043	340	6,099
合計	1,539	2,218	2,045	342	6,144

【29年度新規契約数】

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	生活保護(再掲)	計
11	4	1	0	8	16

【29年度終了数】

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	計
7	3	1	2	13

※解約理由 本人希望 3件、本人死亡 5件、成年後見制度移行 4件

【29年度末における契約数】

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	生活保護(再掲)	計
27	26	20	3	34	76

◆制度の啓発 平成30年1月18日 湖東地域こころのケアチーム研究会

(2) 法人後見の受任に向けた検討

法人後見の受任を検討するに当たり、先駆的に専門職後見を受任されている方からの助言を受け、長浜市社協と米原市社協へ視察研修を実施した。

また、全国権利擁護支援ネットワークへ「法人後見従事者養成研修」の開催日程を確認するも残念ながら今年度中の開催はされなかったため、今年度は未受講となった。

来年度は、専門職後見を受任されている方から直接指導や同行研修を受けるなどして、法人後見が受任できるように体制を整備していく。

3) 生活困窮者支援事業

(1) 生活福祉資金貸付事業の実施

低所得者や失業者等の生活再建に向けたセーフティネットのひとつとして、滋賀県社会福祉協議会から事務委託を受け、継続的な相談支援と合わせて、生活費や一時的な資金の貸付けを行う総合支援資金のほか、教育支援資金、福祉資金等の貸付けを行った。

【29年度相談件数および申請件数】

資金名	延べ 相談件数	申請 件数	決定 件数	貸付額	完了者
総合支援資金	40件	0件	0件	0円	1件
緊急小口資金	239件	12件	11件	70,300円	4件
福祉費	106件	10件	10件	4,820,000円	5件
教育支援資金	276件	14件	13件	18,054,000円	0件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件	0件	0円	0件
不動産担保型生活資金 (要保護世帯向け)	0件	0件	0件	0円	0件
その他 (離職者支援資金等)	1件	0件	0件	0円	1件
合計	662件	36件	34件	22,944,300円	11件

(2) 生活つなぎ資金貸付事業の実施

生活保護の申請者や生活福祉資金の申請者を対象に、適用されるまでの間等において手持ち金が少なく生活に支障をきたす恐れがある場合に緊急かつ一時的に生活つなぎ資金を貸付けることにより生活の安定を図ることを目的として、生活つなぎ資金事業を引き続き実施し、貸付けを行った。

生活つなぎ資金 貸付	相談貸付人数		貸付総額
		32人	
内訳	生活保護申請者	25人	396,000円
	生活福祉資金申請者	7人	160,000円

(3) 就職面接にかかる各種支援事業の実施

自立に向けた活動の一環として就職面接等を行うにあたり下記の事業により各種支援を行った。

○身だしなみ支援事業 利用者：2名

本会貸衣装事業との連携により、スーツ、ワイシャツ、ネクタイ、靴および鞆の無料貸付を実施

○散髪支援事業 利用者：2名

長曾根南町『NOVITAカット』の協力により、無料での散髪（理容）を実施

○入浴支援事業 利用者：なし（問い合わせのみ）

北老人福祉センターとの連携により実施（入浴日以外の曜日はシャワー対応）

(4) リ・ソート株式会社の協力による家電等の無料提供

各相談機関窓口からの依頼や本会の相談窓口でのニーズ把握を受け、地元企業であるリ・ソート株式会社の協力を得て「家電等の無料提供による支援」を実施した。

実施件数 10件（20品目）

依 頼 元	提 供 品 名
子育て支援課	電気ケトル、炊飯器
社会福祉課(困窮)	冷蔵庫
社会福祉課(困窮)	扇風機、炊飯器
火事災害者	洗濯機、ポット、カセットコンロ
社会福祉課(困窮)	冷蔵庫、掃除機、炊飯器、電子レンジ、テレビ、洗濯機
社協(丸ごと相談)	洗濯機
社会福祉課(困窮)	炊飯器
社会福祉課(困窮)	炊飯器
社協(生活福祉資金)	洗濯機
社協(包括ハピネス)	オーブンレンジ、三段ボックス

その他の地域福祉推進事業

〈会計の区分〉

拠点区分：老人福祉センター運営事業／サービス区分：南老人福祉センター運営事業
 // /サービス区分：北老人福祉センター運営事業

1) 老人福祉センター運営事業（彦根市指定管理者受託事業）

彦根市から指定管理者制度の指定を受け、南老人福祉センターにおいては平成28年度から、北老人福祉センターにおいては平成29年度から施設の管理運営を行った。

特に、設置目的である地域住民と地域の諸団体・組織の参画と協働により、高齢者の各種相談、健康の維持・増進、趣味・教養・技能の向上等、住民のニーズに対応したシニア世代の居場所、気軽に立ち寄れる拠点づくりをめざし、利用者の生きがいづくりの場として、各種趣味や健康づくりクラブの育成強化、各種講座などの事業充実を図った。

(1) 南老人福祉センター運営事業

開館日数 243日

利用者数 個人 延べ 2,721人 / 団体 延べ 4,693人

◆自主事業

①チャレンジ機能向上事業

②生きがい健康づくり事業

内 容	
パソコン講座（年1講座3日）	寄せ植え講座（年1講座）
手芸講座（毎月第1金曜日）	フラワーアレンジ講座（年1講座）
シニア元気塾（年6講座）	カロム大会（年2回）
絵手紙講座（毎月第4火曜日）	お楽しみ映画会（毎月第3水曜日）
発表会（7月第1金曜日）	展示会（地区文化祭と同日開催）
ホールインワン大会（1回）	切り絵講座上級（毎月第1・3金曜日）
切り絵講座初級（毎月第2・4月曜日）	囲碁・将棋講座（毎月第1・3金曜日）
うたの広場（毎月第2・4金曜日）	

③H&Hネットワーク事業の充実

市南部地域に居住しておられる高齢者の方の文化作品を、地域の事業所等に展示していただく事業。このことが、作者の励みや生きがいにつながり、また社会の絆が薄れてきている今日、潤いと安らぎのあるコミュニティづくりへとつながっていく事業と考えている。

作品提供者 40人 作品数 85点

展示協力事業所数 20事業所

④いきいきクラブの育成強化

(単位：人)

クラブ名	活動日	会員数
カロムクラブことぶき	毎週火曜日	8
いきいき体操さわやかクラブ	毎週木曜日	19
いきいき体操にこにこクラブ	毎週月曜日	16
パソコンクラブ	毎月第1・3木曜日、第2・4水曜日	16
ニューメダカ会	毎月第2・4月曜日	16
大正琴なかま	毎月第1・3月曜日	3
大正琴いなほ会	毎月第1・3木曜日	6
大正琴みずすまし会	毎月第2・4金曜日	4
大正琴ちどり会	毎月第1・3月曜日	8
大正琴すずらん	毎月第2・4木曜日	3
なかよしクラブ手芸	毎月第2水曜日	6
コスモスクラブ(ハーモニカ)	毎月第1・3火曜日	11

⑤発表会・作品展の開催

発表会 開催日：平成29年7月7日(金)

来場者：約150名

作品展 開催日：平成29年11月4日(土)～5日(日)

来場者：262名

⑥お楽しみ映画会

開催日：毎月第3曜日(午前・午後各1回)開催

参加者：延べ443名

◆相談事業

①地域包括支援センター「いなえ」との連携による健康相談および生活相談

②心配ごと相談の出張窓口の開設

◆施設の有効利用

①各種団体の会合等への貸館業務

開設日数(年間) : 243日

一日当たり利用者数 : 1.8団体(19.3人)

②マッサージ機・健康器具の利用

(2) 北老人福祉センター運営事業

開館日数 244日 ※休日開館(いきいきフェスタ)含む

利用者数 個人 延べ7,328人 / 団体 延べ10,814人

◆自主事業

①いきいきチャレンジ事業

・シニア期の楽しみ方講座(23人)

・かまどベンチを使った防災講座(城北くらしプラン連携事業)(30人)

- ・パソコン初級講座（５日間）（延べ３５人）
- ・地域支え合い講座（地域福祉課連携事業）（１５人）
- ・寄せ植え講座（お正月編）（１４人）

②健康づくり・介護予防事業

- ・認知症を知る講座（１８人）
- ・生活習慣病予防講座（１１人）
- ・歴史探訪ウォーク（２回）（城西プラン連携事業）（延べ２３人）
- ・金亀（根気）体操（地域包括支援センターハピネス共催事業）（延べ４５５人）

③シニア世代の居場所づくり事業

- ・ハピネスいきいきフェスタ２０１７（ステージ発表・作品展示）（延べ６００人）
- ・ハピネスクリスマスコンサート（１２０人）
- ・風流しゃれかるた大会（１１人）
- ・うたごえひろば（第１・第３金曜日）（延べ１，６２７人）
- ・ふれあいシネマ（第３木曜日）（延べ２１７人）
- ・つながり交流会（１６人）

④子育て親子・子どもの居場所づくり事業

- ・シニア&キッズ将棋交流会（２回）（世代間交流事業）（延べ１８人）
- ・常設型おもちゃ図書館開設（延べ３，１９４人）
- ・あそびひろば開設（毎週火曜日）（延べ９９５人）

⑤ハピネスいきいきクラブの育成事業

- ・登録クラブ数（２１クラブ・２１５人登録）
- ・クラブ代表者会議の開催（２回）
- ・いきいきフェスタ２０１７実行委員会の開催（２回）
- ・クラブ活動一般公開（上半期：延べ２８団体・下半期：延べ２２団体）
- ・情報紙への各クラブ活動掲載（毎月）

⑥広報・啓発事業

- ・情報紙「きたろー通信」の発行（毎月）
- ・講座等案内チラシの配布
- ・広報紙「社協ひこね」への掲載（６回）
- ・ホームページ（ツイッターおよびフェイスブック）による情報発信（随時）
- ・報道機関への情報提供（随時）

◆相談支援事業

- ①生活に関する相談 ５２件
- ②健康に関する相談（金亀体操開設時） ５件
- ③心配ごと相談（出張相談窓口開設） ５件

◆施設の有効利用

- ①入浴利用（月曜日・木曜日） ９５日 延べ２，３６８人
- ②健康器具利用（電子浴・マッサージ機） ２４４日 延べ２，４７８人

③各種クラブ活動・団体の会合等への貸館業務

開設日数（年間）：244日

一日当たり利用者数：3.5団体（44.3人）

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：社協運営事業

2) 彦根市社会福祉大会の開催

「住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」をめざし、広い世代に地域福祉活動やボランティア活動に関心・興味を持ってもらえるよう、住民への啓発やきっかけづくりを目的として、「彦根市社会福祉大会」を開催した。

講師に、ご近所福祉クリエイターの酒井 保さんを迎え、『つながる喜び・つなげる喜び～あなたはどんな地域に暮らしたいですか～』をテーマに基調講演を行い、「支えるひと」「支えられるひと」ともに役割があることこそが「おたがいさん」であることを再確認できた。

開催日時 平成29年11月26日（日） 13時30分～16時

開催場所 ビバシティホール

参加者数 市民一般 約250人

大会内容 式典 13時30分～14時20分

社会福祉功労者に対する表彰および感謝状の贈呈

市長表彰：4件（自立更生者：3件、更生援護功労者：1件）

市社協会長表彰：19件（社会福祉功労者：15件、社会福祉功労団体：特別表彰1件・一般表彰3件）

市社協会長感謝状：8件

車いす贈呈式

贈呈者：エフエムひこねコミュニティ放送株式会社

贈呈台数：2台

基調講演 14時30分～16時

演題 『つながる喜び・つなげる喜び

～あなたはどんな地域に暮らしたいですか～』

講師 近所クリエイター 酒井 保さん

市内子ども食堂の紹介コーナー（パネル展示）

〈会計の区分〉

拠点区分：共同募金配分金事業／サービス区分：一般募金配分金事業

〃／サービス区分：歳末たすけあい募金配分金事業

3) 赤い羽根共同募金の活用による地域福祉事業の推進

(1) 一般募金の活用による事業の推進

◆小地域福祉活動助成事業（自治会支援）

自治会域における住民同士のつながりづくりや、つながりを生み出す拠点の整備等を

支援し、地域に暮らす人々が互いに支え合い、安心して暮らし続けることのできる福祉のまちづくりを推進するため、赤い羽根共同募金を財源として自治会が取り組む事業に要する経費の一部を助成し、その活動を応援した。

平成29年度においては7自治会へ助成し、住民のつながりの場・居場所等の整備を図ることができた。

順不同

(単位：円)

自治会名	助成内容	総事業費	助成額
上石寺町自治会	居場所づくりのための固定遊具の設置	328,320	80,000
新海町自治会	公園固定遊具補修	191,160	80,000
下稲葉町自治会	車いすの購入	38,500	19,000
佐和山西町自治会	公園固定遊具補修	249,912	80,000
甲崎町自治会	公園へのベンチ設置	27,920	13,000
馬場一丁目自治会	居場所づくりのためのベンチ設置	77,652	38,000
薩摩町自治会	車いすの購入	38,000	19,000
合 計		951,464	329,000

◆広報紙「社協ひこね」点字・音訳事業

主に視覚障害のある方へ広報紙「社協ひこね」の内容を提供することを目的に、ボランティアの協力を得て点字版および音訳版を作成した。

点字版・音訳版発行回数：年6回

点字版設置箇所：県立視覚障害者センター、彦根市障害者福祉センター、県立盲学校、
本会窓口

◆「社会を明るくする運動」彦根市推進委員会への助成

犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪のない地域社会を築く“社会を明るくする運動”について、赤い羽根共同募金を財源として、必要な経費の一部を助成することによりその活動を応援した。

助成額：100,000円

◆彦根市民生委員児童委員協議会連合会への助成

住民の悩みに寄り添う民生委員・児童委員の活動を広く発信することを目的に、赤い羽根共同募金を財源として、広報紙「ねっと彦根」の発行に必要な経費の一部を助成し、活動を応援した。

助成額：400,000円

(2) 歳末たすけあい募金の活用による事業の実施

◆歳末たすけあい募金助成金による助成事業

「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに12月1日から1か月

間、歳末たすけあい運動を実施した。

また、「歳末たすけあい募金」の助成を受け、歳末時期における地域福祉活動を展開するとともに、住民参加による活動のさらなる充実をめざして、各学区（地区）社協において取り組んだ。

実施時期：概ね12月1日～12月31日

実施事業名：歳末友愛訪問／歳末ふれあいのつどい／ふれあいサロン小地域福祉活動グループ交流会・懇談会／ふれあい餅つき

事業費：2,112,536円

◆生活困窮者等緊急支援事業

離職等によって生活困窮となった世帯に対し、越年対策の一つとして、緊急支援物資を購入し、関係機関からの相談により物資の提供を行った。

購入物資：食品（アルファ米・レトルト食品・麺類・乳幼児用オムツ等）

事業費：200,000円

歳末時期（H29.11～H30.1）における支援件数：

経済的困窮者（自立支援、年金受給等）	延べ22名	
生活保護申請者	3名	
ホームレス	2名	計27名

※物資残については、善意銀行による生活困窮者緊急支援に使用

〈会計の区分〉拠点区分：善意銀行運営事業／サービス区分：善意銀行運営事業

4) 善意銀行預託金の活用

多くの市民から、善意に基づく金銭や物品の預託を受け、広く社会福祉の増進に活用した。市内の事業所や企業へ「彦根善意銀行ボックス」の設置協力を呼びかけ、新たに市内77箇所（ボックス数は80）に設置した。

社協ひこね第197号で「大人用おむつ」をお分けすることを掲載したところ、20件の申出があり配付した。

①金銭預託 計2,546,152円

（内訳）

一般預託：2,436,152円

彦根善意銀行ボックス 181,719円

彦根市民生委員児童委員協議会連合会 1,572,399円

上記以外の寄付 682,034円

指定預託：110,000円

②物品預託（車椅子・紙おむつ、お米等） 延べ 42件

③古切手・使用済みテレフォンカード・ハガキ 延べ 310件

④ベルマーク・ロータスクーポン 延べ 111件

⑤火事見舞い 8件（150,000円）

（全焼7件、半焼1）

⑥生活困窮者への緊急支援 物資（食料・衣料・物品）の提供
合計 161件

【内訳（延べ件数）】

生活保護申請者 : 21件
生活保護受給者 : 21件
自立支援相談者 : 40件
その他（年金受給者等）: 79件

⑦彦根善意銀行ボックスの設置 計 111箇所（ボックス数114個）

⑧善意銀行運営委員会の開催

開催日	付議事項
平成30年3月13日	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度収入状況について ○平成29年度支出状況について ○物品等の受入れおよび活用状況について ○善意銀行残高の状況について ○平成30年度の計画と予算（案）について ○その他平成29年度彦根市社協ツイッター掲載記事

〈会計の区分〉拠点区分：福祉基金運営事業／サービス区分：福祉基金運営事業

5) 福祉のまちづくり活動助成金の活用

ボランティアグループやNPO、学区(地区)社協、単位民児協等福祉のまちづくりを進めるために取り組む小地域福祉活動や社会貢献活動に対し、必要な経費の一部を助成することにより活動を応援した。

助成決定団体数 14団体

【助成実績および助成額】

助成決定団体	助成内容	助成額
稲枝地区社会福祉協議会	地域福祉団体貸出用プロジェクター・スクリーン購入	192,000円
音の宅配便“そよかぜ”	そよかぜハートフルコンサート	200,000円
おの町花草会（はなそうかい）	地域伝統色を通したサロン活性化事業	70,000円
甲崎ボランティアグループほっと	安全、安心笑顔あふれるまちづくり（ワンコインカフェ、世代間交流等）	150,000円
さざなみネット	ボランティア新聞発行	34,000円
さわやま♥ほっとライン	さわやま餅つき大会	180,000円

障害者の就労と余暇を考える会 ロディー	成年後見制度学習会	50,000円
城西一民生委員児童委員協議会	ひろめよう！地域でのふれあい活動	81,000円
城西二民生委員児童委員協議会	ふれあい、いたわりあう地域住民との 交流事業	48,000円
高宮学区社会福祉協議会	介護予防・認知症予防講座 「体験してみよう！健康まーじゃん」	200,000円
日だまりの会根気体操	“おたがいさん”の見守り活動	100,000円
ふれあい交遊広場“なごみ”	ふれあい交遊広場なごみ（新規開設）	100,000円
ボランティア日本語教室スマイル	ジョイント国際交流会	77,253円
森のまんまるようちえん	子どもと親の居場所づくり	200,000円
合 計		1,682,253円

〈会計の区分〉

拠点区分：小児難病救済基金運営事業／サービス区分：小児難病救済基金運営事業

6) 小児難病救済基金助成事業

彦根市内に在住する児童の小児慢性特定疾病および難治性の疾病の治療、手術等に要する費用の一部を助成する制度について、法律や公的補助制度等との整理と検討に着手した。今後においても、必要とする児童やその家族が活用しやすい助成制度となるよう検討を進めていく。 助成件数：0件

〈予算を伴わない事業〉

7) その他事業

(1) 車椅子貸出事業

日常生活を支援するための通院や外出用として、また、学校や地域における体験学習用として車椅子の貸出しを行った。(貸出用車いすの保有台数 32台)

【車椅子貸出延台数】

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
個人	10	12	16	14	18	9	14	15	6	5	7	12	138
学校 団体	0	27	15	10	0	20	13	24	13	0	24	0	146
貸出 台数	10	39	31	24	18	29	27	39	19	5	31	12	284

(2) ボランティア保険加入促進事業

ボランティアが安心して活動へ参加し、また、安定した活動につながるよう、加入手続きの窓口業務を行うことによりボランティア保険の加入を促進した。

保険の種類	加入者(件)数	うち事故件数
ボランティア活動保険	2,675人	2件
ボランティア行事用保険	18,585人	1件
福祉サービス総合補償	5件	1件
送迎サービス補償	6件	0件

(3) 「ふくしの店」設置事業

福祉センター別館にショーケースを設置し、来館者等への製品販売を促進するとともに、市内で行われた各種イベントへの出店の斡旋など、障害者福祉施設で作られている自主製品の販売活動への支援を行った。

「ふくしの店」常設店 彦根市福祉センター別館 1 階
 対象施設名 彦根学園／あじさい福祉会／夢工房 i f／あけぼの共同作業所／種芸／セルフひこね／彦華堂／つばきはらファクトリー／工房ふれっしゅ（以上 9 施設）
 常設店出店施設名 彦根学園／あじさい福祉会／夢工房 i f／種芸／たんぽぽ作業所（以上 5 施設）

【「ふくしの店」年間売上（常設店分）】 (単位：円)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上額	2,950	2,450	900	800	3,700	7,000
月別	10月	11月	12月	H30.1月	H30.2月	H30.3月
売上額	2,700	100	200	300	0	200
				合計	21,400	

年間の動き（出店状況）

平成30年 2月20日（火） 金亀ライオンズクラブ景品 7施設

重点項目 介護保険、障害福祉サービス事業の充実

〈会計の区分〉

拠点区分：介護保険・障害福祉サービス事業／サービス区分：訪問介護事業

〃 〃 〃／サービス区分：居宅介護支援事業

〃 〃 〃／サービス区分：障害福祉サービス事業

1) 在宅介護課事業（介護保険・障害福祉サービス事業）

介護保険サービス利用者への居宅介護支援（ケアプランの作成）、訪問介護（ホームヘルプサービス）、および通所介護（デイサービス）の各種事業を実施した。

また、障害者の日常生活を支援していくためのサービスの提供を行った。

(1) 居宅介護支援（ケアマネジメント）事業

要介護者が、その居宅において有する能力に応じ、可能な限り自立した生活を営むことができるように支援することを目的とし、ケアプランの作成や支援を行った。地域包括支援センターや地域からの支援が困難なケースにも連携を図り対応した。

利用者サービス事業者のパイプ役となり、連絡、調整や介護に関するさまざまな相談に応じた。

項目	内容
営業日	月曜日～金曜日（祝日、12月29日から1月3日を除く）
営業時間	午前8時30分～午後5時15分
職員体制 (H30.3.1現在)	〔管理者〕 常勤 1名 〔主任介護支援専門員〕 常勤 1名 〔介護支援専門員〕 常勤 4名 非常勤 1名
経営の安定化	・ 担当件数の確認と分析を毎月実施 ・ 特定事業所加算Ⅱ指定要件確認 ・ 事業所自己評価を1月に実施 ・ 個人の自己評価を9月と3月に実施
アンケート	利用者アンケートを平成29年11月に実施。
実習生の受け入れ	ケアマネ資格取得者への指導（2名）
職員研修	・ 適切なアセスメントのための困難事例の検討 年5回実施 ・ 職員の資質向上のために個人の研修計画を作成し研修を受講 ※内部会議を月1回実施し、情報交換等行っている。
24時間相談対応	営業時間外 98件（H28、75件）

事業実績

【居宅介護支援利用者数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	184	184	188	193	198	193	197	198	192	192	192	189	2,300
前年度	177	176	175	175	170	174	173	174	173	181	186	184	2,118

【居宅介護支援利用者要介護度別利用者数】

実績	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
延べ利用者数		39	94	764	649	408	178	168	2,300
前年度		60	96	607	652	353	220	130	2,118

(2) 訪問介護（ホームヘルプサービス）事業

介護保険法、障害者総合支援法により、利用者が居宅において能力に応じ可能な限り自立した日常生活を過ごせるように支援を行った。

項目	内容
営業日	月曜日～日曜日（12月31日、1月1日を除く）
営業時間	午前7時～午後9時
平成29年度目標	「温かい眼差しと思いやりの心で、ご利用者様に寄り添う介護を目指します。」
職員体制 (H30.3.1現在)	〔管理者〕 1名 〔常勤職員〕 6名（介護福祉士有資格者6名） 〔非常勤職員〕 2名（介護福祉士） 〔登録職員〕 ホームヘルパー 18名（介護福祉士有資格者4名） ガイドヘルパー 10名
サービス内容	〔身体介護〕 ・入浴介助、清拭、排泄介助、食事介助、体位変換、衣類着脱の介助、通院介助 〔生活援助〕 ・調理、洗濯、掃除、買い物 〔その他〕 ・日常生活における困りごとへの相談、助言 〔ガイドヘルプサービス〕 ・視覚障害者への同行援護サービス 〔移動支援事業〕 ・身体障害者等への移動支援サービス
アンケート	利用者アンケートを平成29年8月に実施し、利用者のニーズを的確に捉えサービスの向上につなげている。
実習生の受け入れ	〔実習生の受け入れ延人数〕 ・高校生 2人 ・大学生 4人
職員研修	個別に到達目標を設定し、そのために必要な技術や知識を習得するよう努めた。専門性の高い介護サービスを提供できるよう質の向上に努めた。 ※内部会議を月1回実施し、情報交換等行っている。
介護保険外自費サービスの実施	平成27年10月から実施 利用者2名・2回訪問

事業実績

【訪問介護サービス利用回数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	1,207	1,280	1,248	1,241	1,275	1,285	1,284	1,242	1,169	1,095	1,046	1,164	14,536
前年度	1,237	1,345	1,384	1,284	1,250	1,137	1,137	1,075	1,091	1,000	947	1,221	14,108

【訪問介護利用者要介護度別利用者数】

実績	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者数		69	192	294	313	245	77	63	1,253
前年度		94	255	303	374	202	86	47	1,361

【障害福祉サービス利用回数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	126	137	163	161	146	177	162	146	147	122	127	155	1,769
前年度	256	221	208	198	189	219	226	208	202	146	182	175	2,430

【障害福祉サービス利用者数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	19	19	22	19	18	21	19	17	18	16	16	17	221
前年度	23	24	24	23	19	22	23	20	24	15	18	23	258

(3) 通所介護（デイサービス）事業

要支援者および要介護者に対して、在宅生活の継続に向けて機能維持を図り、介護負担の軽減を図れるように、次のサービスを提供した。

項目	南デイサービス	北デイサービス
実施日時	毎週 月曜日～土曜日 9時30分～16時40分まで 年間休業日 日曜日、12月31日、1月1日	
実施場所	彦根市南デイサービスセンター 彦根市田原町13-2	彦根市北デイサービスセンター 彦根市馬場一丁目5-5
年間 延利用者数	5,780人	7,940人
職員体制 (H30.3.1現在)	〔管理者・生活相談員兼務〕 1名 〔生活相談員・介護職員兼務〕 1名 〔看護師〕 3名 〔介護職員〕 4名（パート） 2名	〔管理者・生活相談員兼務〕 1名 〔生活相談員・介護職員兼務〕 3名 〔看護師〕 2名（パート） 4名 〔介護職員〕 5名（パート） 1名 〔施設管理他〕 1名 〔給食職員〕（パート） 1名

健康チェック	看護師が、血圧測定・体温・脈拍の計測をはじめ身体の一般状態を観察。状態により入浴の可否を決定および利用中の健康管理等を行う。	
入浴サービス	利用者の身体状態に合った方法で入浴サービスを提供。 一般浴・リフト浴（北・南デイサービス） 特殊浴（北デイサービス）	
機能訓練	歩行訓練・階段昇降・リハビリ体操 趣味活動（塗り絵・各種プリント類・手作業・壁画作り（ちぎり絵作品など）	歩行訓練・階段昇降・リハビリ体操（金亀体操、骨盤底筋運動、片足立ち運動、平行棒、上腕運動） 趣味活動（塗り絵・各種プリント類・手作業・壁画作り（ちぎり絵作品など）
食 事	給食業者に依頼しているが、常に食事内容の検討を行い美味しく食べることの大切さを考えて業者に提案を行っている。 ・通常の食事の他に、メニューに変化をもたせた行事食では（お花見弁当・七夕週間・お寿司週間・お鍋週間・おせち料理）を提供している。 ・毎月の喫茶週間ではケーキとコーヒーなどを提供し、利用者の楽しみの一つとなっている。	
レクリエーション	毎日のレクリエーション 身体を動かせるもの （風船バレー・ボーリング等） お好みレクリエーション （クイズ・言葉さがし・トランプ・カロム・歌等） 回想法 季節のレクリエーション 夏祭り・運動会 野外レクリエーション お菓子づくり 月1回 4月 お花見 5月 バラ園散策 6月 園芸リハビリ 6月・12月 お買い物 9月 秋祭り 11月 多賀大社参拝 11月 菊花展鑑賞	毎日のレクリエーション オリジナルゲーム（身体を動かすもの・脳リハ等） お好みレクリエーション （パズル・ドミノ倒し・オセロ・斉唱・カードゲーム・カラオケ等） 回想法・俳句等 季節のレクリエーション 夏祭り 野外レクリエーション 4月 お花見 5月 バラ園散策 7月 お買い物（ベイシア） 10月 四番町スクエア散策 10～11月 多賀大社参拝 その他に、毎月ドラッグストアへのお買い物
活動	年4回 新聞の発行（デイでの様子や、行事などの写真を掲載。なお、掲載者には事前に承諾を得ている。）	
ボランティアの受入れ	ほほえみの会（月～金各2名の方が整髪・お茶等の補助や利用者の方への話し相手等をして下さっている） 琴・三味線・大正琴・トランペット演奏・ヨガ・指体操・ハーモニカ・着物着付け等	美容ボランティア（年8回） キーボード演奏・ハーモニカ演奏・和風民謡クラブの舞踊 カラオケボランティア
介護者教室	口腔ケアについて効果や必要性を伝える。 特殊詐欺犯罪予防の啓発 介護方法・認知症介護の相談	金亀体操 年8回 看護師による健康講座 年2回 介護者の集い（介護相談等） 年2回

実習生の受け入れ	大学生 20名 小学生 20名	大学生 30名 高校生 1名(インターンシップ) 障害者介護職員初任者研修事業1名
アンケート	利用者アンケート(年1回)を行い、利用者のニーズを的確に捉えサービスの向上につなげている。	
研修	<p>外部研修 積極的に出席し、職員の資質や介護技術の向上を図っている。 認知症研修・対人援助研修・福祉車両安全運転講習会・リハビリ研修・レクリエーション研修 身体拘束ゼロセミナー・管理者向け研修など</p> <p>内部研修 外部研修で得た知識を職員間で共有するために実施。また、利用者の介護方法に疑問を感じた場合は、随時内部研修を行って検討している。</p> <p>防災訓練 南デイ：老人福祉センター・地域周辺施設と2回行っている。 北デイ：老人福祉センターと合同で年間2回(内1回は、消防署員の派遣有)水害を想定した避難訓練1回</p> <p>AED実技研修 年1回 その他、衛生委員会、交通安全研修等</p>	

事業実績

南デイサービス

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	506	541	535	527	508	514	497	512	458	384	365	433	5,780
前年度	538	534	570	550	542	553	530	517	520	457	441	567	6,319

実績	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
延べ利用者数	27	53	247	775	1,941	1,470	848	419	5,780
前年度	29	90	550	1,377	1,672	1,497	803	301	6,319

北デイサービス

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	596	670	668	705	710	668	683	667	672	598	596	707	7,940
前年度	654	654	631	651	680	656	644	637	617	593	605	677	7,699

実績	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
延べ利用者数	136	252	1,018	1,919	2,506	1,017	656	436	7,940
前年度	111	266	860	1,930	2,377	980	940	235	7,699

2) 在宅介護課事業（彦根市地域包括支援センター運営事業）

〈会計の区分〉

拠点区分：地域包括支援センター運営事業／サービス区分：包括ハピネス運営事業

〃 〃 ／サービス区分：包括ひらた運営事業

〃 〃 ／サービス区分：包括いなえ運営事業

(1) 彦根市地域包括支援センター運営事業（ハピネス・ひらた・いなえ）

彦根市地域包括支援センター運営事業（ハピネス・ひらた・いなえ）は、市民の心身における健康の保持および生活の安定のために必要な援助を行うことにより、地域の保健医療の向上および福祉の増進を包括的に支援することを目的とし、また地域包括ケアシステムを構築するための中核機関として、彦根市から事業を受託している。

事業内容は、

① 包括的支援事業（必須事業）

- ・ 総合相談支援事業
- ・ 権利擁護業務
- ・ 介護予防マネジメント業務
- ・ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

② 介護予防事業

- ・ コツコツ続ける金亀（根気）体操出前講座 フォローアップ講座
- ・ 脳の健康チェック付ほっとかない認知症出前講座

以上の委託事業とともに、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築および指定介護予防支援事業（必須事業）も実施している。

運営に当たっては、介護保険制度をはじめとする市の介護、福祉行政の一翼を担うため、適切、公正、中立かつ効率的に行うとともに、保健師・看護師等、主任介護支援専門員、社会福祉士の専門職種等のセンター職員がセンターの業務全体を十分に理解し、相互に連携・協働しながらチームとして実施できるよう、情報の共有に配慮している。また、市が行う福祉サービスはもとより、地域におけるさまざまな社会資源を活用した継続的、包括的なケアが行われることを目指して事業を実施した。

《担当地域の概況》

（平成30年2月末現在）

彦根市地域包括支援センター ハピネス	城西	城北	合計
総人口	5,919	5,187	11,106
人口（65歳以上）	1,766	1,251	3,017
高齢化率	29.8%	24.1%	—
介護保険認定件数（要支援）	92	41	133
介護保険認定件数（要介護）	282	155	437

彦根市地域包括支援センター ひらた	金城	平田	合計
総人口	11,642	6,116	17,758
人口（65歳以上）	2,952	1,694	4,646
高齢化率	25.4%	27.7%	—
介護保険認定件数（要支援）	82	74	156
介護保険認定件数（要介護）	313	196	509

彦根市地域包括支援センター いなえ	稲枝東	稲枝北	稲枝西	合計
総人口	6,954	2,472	3,016	12,442
人口（65歳以上）	1,876	941	1,007	3,824
高齢化率	27.0%	38.1%	33.4%	—
介護保険認定件数（要支援）	77	27	34	138
介護保険認定件数（要介護）	245	135	126	506

業務状況

	ハピネス		ひらた		いなえ	
所在地	彦根市馬場1丁目 5-5		彦根市平田町 670番地		彦根市田原町13-2	
営業日及び 営業時間	月曜日～金曜日 8時30分～17時15分 24時間電話対応実施					
人員体制	主任介護支援専門員 （管理者兼務）1名 看護師 1名 社会福祉士 1名 介護支援専門員1名		主任介護支援専門員 （管理者兼務）1名 看護師 1名 社会福祉士 2名 介護支援専門員1名		主任介護支援専門員 （管理者兼務）2名 看護師 1名 社会福祉士 1名 介護支援専門員 1名	
総合相談 件数	2,114件		1,217件（7月～）		1,442件	
	直営分	委託分	直営分	委託分	直営分	委託分
介護予防 （要支援者） 契約件数	884件	259件	436件	89件	607件	281件
介護予防 ケアマネジメントA 給付件数	214件	90件	258件	33件	169件	43件
介護予防 ケアマネジメントC 給付件数	16件	0件	9件	0件	2件	0件
介護予防 給付管理 延べ件数	1114件	349件	703件	122件	778件	324件

重点項目 組織基盤の整備と強化

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：社協運営事業

1) 法人運営体制の充実

(1) 理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

社会福祉法の改正に伴う新体制のもと、業務執行に関する意思決定機関としての「理事会」、法人運営体制の決定を行う議決機関としての「評議員会」を開催し、社会福祉法人としての適切な運営を図った。

① 理事会の開催（会議4回）

回	開催日	付議事項
第1回	平成29年 5月31日	<p>《議案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度事業報告の承認を求めることについて ・平成28年度一般会計収支決算の承認を求めることについて ・評議員の報酬等に関する規程（案）について ・役員報酬等に関する規程（案）について ・会員規程（案）について ・評議員選任候補者の選出について ・役員選任候補者の選出について ・定時評議員会（第1回評議員会）の招集について
第2回	平成29年 6月21日	<p>《議案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長及び常務理事の選定について
第3回	平成29年12月18日	<p>《報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定款第21条第5項に基づく会長及び常務理事の職務執行状況について ・社会福祉法人指導監査の結果について ・介護サービス事業者に対する実地指導の結果について ・彦根労働基準監督署による臨検の結果および対応について ・個別労働関係紛争事件について ・専決処分について（平成29年度一般会計補正予算（第1～5号）） <p>《議案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度一般会計補正予算（第6号）（案）について

		<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人彦根市社会福祉協議会定款の一部改正案について ・平成29年度第2回評議員会の招集について
第4回	平成30年 3月22日	<p>《報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定款第21条第5項に基づく会長及び常務理事の職務執行状況について ・専決処分について（平成29年度一般会計補正予算（第7号）） <p>《議案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度一般会計補正予算（第8号）（案）について ・経理規程の一部改正（案）について ・平成30年度事業計画（案）について ・平成30年度一般会計収支予算（案）について ・平成29年度第3回評議員会の招集について

② 評議員会の開催（会議3回）

回	開催日	付議事項
第1回	平成29年 6月20日	<p>《議案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度事業報告の承認を求めることについて ・平成28年度一般会計収支決算の承認を求めることについて ・評議員の報酬等に関する規程（案）について ・役員の報酬等に関する規程（案）について ・会員規程（案）について ・役員の選任について
第2回	平成29年12月26日	<p>《報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専決処分について（平成29年度一般会計補正予算（第1～5号）） <p>《議案》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度一般会計補正予算（第6号）（案）について ・社会福祉法人彦根市社会福祉協議会定款の一部改正案について
第3回	平成30年 3月29日	<p>《報告》</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・専決処分について（平成29年度一般会計補正予算（第7号）） 《議案》 ・平成29年度一般会計補正予算（第8号）（案）について ・平成30年度事業計画（案）について ・平成30年度一般会計収支予算（案）について
--	--	---

③ 監査の実施

開催日	監査事項
平成29年 5月19日	平成28年度事業実施状況および一般会計決算ならびに財産の状況について

④ 評議員選任・解任委員会の開催

開催日	付議事項
平成29年 6月12日	評議員の選任について

⑤ 第三者委員会議の開催

開催日	付議事項
平成29年 9月5日	本会における苦情の状況について

(2) 所轄庁による指導監査

① 介護サービス事業者に対する実地指導

所轄庁である滋賀県（湖東健康福祉事務所）による実地指導が行われ、指摘または指示のあった事項について改善報告を行った。

実地指導実施日：平成29年 7月 5日（北デイサービスセンター）

8月24日（南デイサービスセンター）

文書指摘事項：個別機能訓練加算Ⅰに通所介護計画等について（南デイサービスセンター）

口頭指示事項：運営規程、重要事項説明書の記載内容について（北デイサービスセンター）

改善報告日：平成29年 9月28日（南デイサービスセンター）

※北デイサービスセンターについては報告を要しなかった

理事会報告日：平成29年12月18日（平成29年度第3回）

② 社会福祉法人指導監査

所轄庁である彦根市（社会福祉課）による指導監査が行われ、指導に基づき改善を図

った。

指導監査実施日：平成29年 8月29日

主な指摘事項：長期リース契約に係る会計処理方法について（口頭およびその他）

理事会報告日：平成29年12月18日（平成29年度第3回）

（3）彦根労働基準監督署による臨検

彦根労働基準監督署による臨検の結果、是正勧告および改善指示・指導を受け、社会保険労務士の指導・助言のもと、対応・是正した。

臨検実施日：平成29年 6月13日

勧告内容：時間外労働に関する労使協定の上限を超えた時間外労働につき、是正のうえ、遅滞なく報告すること

指導事項：過重労働による健康障害防止、労働災害防止活動および安全管理体制について

改善報告日：平成29年 8月14日

理事会報告日：平成29年12月18日（平成29年度第3回）

（4）滋賀紛争調整委員会によるあっせん

本会職員からの申請に基づき滋賀紛争調整委員会によるあっせんが行われ、和解で終了した。

2）事務局体制の充実

（1）組織体制の整備

地域包括支援センターハピネスのサテライトであった「平田」が平成29年7月から独立し、新たに「地域包括支援センターひらた」（担当学区：金城・平田）が設置されたことに伴い、所長を新たに配置すると共に、所長を在宅介護課課長補佐級から課長級へ昇格させ、体制の強化を図った。

（2）専門家との連携および業務の省力化

兼ねてから助言・指導を仰いでいた税理士に加え、新たに社会保険労務士および弁護士との顧問契約を締結した。

社会保険労務士については、組織の拡大化と共に職員増加等の関係から、主に総務部門の業務が増大したことに伴い、その業務の一部を委託し、事務負担の軽減を図ると共に、専門的見地から助言を仰ぎ、人事労務業務の適正な執行に務めた。

また、弁護士については近年複雑・多様化する地域住民の生活・福祉課題に、迅速かつ的確に対応していくため、本会相談支援部門職員に対する助言・指導を仰ぐと共に、法人運営にかかる諸々の事項についても専門的見地から助言を仰ぎ、適正な法人運営に努めた。

(3) 内部連絡会議の開催による連携体制の強化

① 連絡調整会議（所属長会議）／月1回

毎月定例の所属長等による会議を開催し、現状課題および今後に向けた協議・検討を行い、連携体制の強化を図った。

② 衛生委員会／月1回

衛生委員会および職場内の安全パトロールを毎月開催・実施し、労働災害の防止、健康の保持増進等職場における労働環境の改善を図り、職員の安心・安全な職場環境と衛生管理の確保に努めた。

また、衛生委員会主催による「職場の健康づくり研修」「交通安全研修」を実施（各1回）し、自身や周囲の仲間の体調管理と自動車事故等の未然防止に対する意識を高めた。

③ 各種職員研修の実施

彦根市社協職員として、法人組織をはじめ各種事業を理解することにより、円滑に業務に就けるよう「職員採用時研修」を実施した。（1回）

また、職員本人をはじめ、住民、利用者、職員等一人ひとりを大切に、適切な対応ができるよう人権意識を高めることを目的に、「人権研修会」を実施した。（1回）

④ 地域福祉推進のための各種会議

◆ 地域福祉課地域サポート係・ボラセン定例ミーティング／月1回

地域サポート係および地域づくりボランティアセンター担当事業の取組について、毎月定例の会議を開催し情報共有と職員のスキルアップを図り、事業の効果的な推進に努めた。

◆ 生活相談支援係定例ミーティング／月1回

地域福祉権利擁護事業および生活福祉資金貸付事業における内部での情報交換と事例検討等を行い、相談援助技術に関する知識の向上および技術の習得に努めた。

◆ 相談支援調整会議／月1回

彦根市社協の総合力とソーシャルワーク機能を効果的に発揮するため、地域福祉部門を中心とした各係の横断的な会議を開催し、ケースの共有、支援のあり方、方法等について検討・調整を行った。

◆ 生活支援体制整備事業の推進にかかる会議／月1回

市より受託している「生活支援体制整備事業」について、アドバイザーおよび市所管課職員を交え、毎月定例の情報交換会議を開き、事業の進捗状況の共有を行った。

◆ 我が事・丸ごと事業定例ミーティング／月1回

市より受託している「彦根市「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業」について、所管課職員を交え、毎月定例の情報交換会議を開き、事業の進捗状況の共有を行った。

3) 一般会費・賛助会費による地域福祉推進財源の確保

学区（地区）社協の協力を得て、各地域の住民に対し一般会費協力依頼を行った。

また、ボランティアグループ、福祉団体・施設等へはダイレクトメールによる「賛助会費」協力依頼に併せ、本会PRチラシを同封し、会費の使途の見える化と本会が取り組むさまざまな事業の周知を行った。

賛助会費については、納入額によるギフトに段階を設け、より多くの賛助会費が得られるよう工夫を凝らした。加えて、年度途中と年度末において2回の依頼を行い、一定の成果を上げることができた。

依頼件数 203団体・施設（学区（地区）社協除く。）

賛助会員加入件数 49団体・施設（ " ）※前年度から13団体増

納入額 122,000円（ " ）

4) 職員の育成

(1) 資格取得の推奨

相談者や利用者に対するより良い援助が行えるよう、専門職としての知識の習得と資質向上を目的とした資格取得に対する助成制度により、4名（介護福祉士3名、精神保健福祉士1名）の職員に対して助成を行った。

有資格職員数（平成30年3月末日現在）

種類	人数
主任介護支援専門員	7
介護支援専門員	28
介護福祉士	42
社会福祉士	21
精神保健福祉士	2
衛生管理者	2
合計	102

(注)上記は、資格取得助成制度の対象資格のみ記載

1名で複数資格を有する場合は、資格ごとに1人として計算

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：社協運営事業

拠点区分：共同募金配分事業／サービス区分：一般募金配分金事業

拠点区分：衣装貸付事業／サービス区分：衣装貸付事業

5) 広報事業

(1) 広報紙「社協ひこね」の発行事業

各地域で取り組まれる福祉活動の情報発信や活動への参加のきっかけづくりを目的に、広報紙「社協ひこね」を発行した。

平成29年度については創刊から200号を迎え、これを機会に表紙および裏面のデ

ザインをリニューアルした。

発行部数：51,800部（平成30年2月1日号現在）

年間6回・全戸配布

【発行状況】

発行号	発行日	表紙掲載記事	その他の主な内容
第195号	4月15日	移動外出支援用車両「おたがいさんさん号」貸出開始	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度事業計画 ・見守り合い活動（薩摩町）
第196号	6月15日	高宮学区社会福祉協議会「ふれあい給食」	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりボランティアセンターからのお知らせ ・北、中、南老人福祉センターからのお知らせ ・あいさつプラスOneポスター配布
第197号	8月1日	ふれあい交遊ひろば「なごみ」（若葉学区）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置・運営訓練 ・平成28年度事業報告及び決算報告 ・鳥居本ボランティアステーション
第198号	10月1日	西平田高齢者憩いの会	<ul style="list-style-type: none"> ・彦根市社会福祉大会 ・善意銀行ボックス設置協力店100店舗達成 ・地域情報（城東学区・佐和山学区）
第199号	12月1日	「つづらサロン笑顔」（河瀬学区葛籠町）	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中のあなたへメッセージ for You ・歳末たすけあい募金運動 ・地域情報（城西学区・旭森学区）
第200号	平成30年2月1日	さわやまもちつき大会	<ul style="list-style-type: none"> ・発行200号に寄せて ・広報紙「社協ひこね」のあゆみ ・あなたのまちの社協さん（学区（地区）社協） ・市内「子ども食堂」の紹介 ・地域情報（日夏地区・多景地区）

(2) 気軽に福祉関連情報を得ることができる場所の開拓

福祉情報を発信する広報紙「社協ひこね」について、市民の目にふれる機会が増えるよう、取材等協力いただいた企業、団体・施設等に対して広報紙「社協ひこね」の設置を呼びかけ、設置場所の開拓を行った。

実績：市内の滋賀中央信用金庫各支店（全9店舗）に社協ひこねを設置いただいた。

また、本店の液晶ディスプレイで本会PR情報を表示いただいた。

(3) 広報委員会の開催

創刊から200号を迎えた広報紙「社協ひこね」の表・裏表紙デザインをリニューアルを目的に開催。

通常の委員に加え、デザインや発想に長けた職員をバックアップメンバーに迎え、全5回の会議を開き、リニューアルを行った。

開催回数：5回

(4) 電子メディアを含む情報発信の強化策検討

① 広報紙、インターネットによる情報提供

広報紙「社協ひこね」の全戸配布とともに、インターネットホームページでも本会事業をはじめ、さまざまな福祉情報を提供した。

また、ツイッターおよびフェイスブックにおいてリアルタイムな地域福祉情報の発信に努めた。

【社協ホームページへのアクセス件数】18,193回（月平均／約1,516回）

【ページの更新・修正等回数】150回

主な更新・修正内容：新着情報、善銀BOX設置、広報紙「社協ひこね」、彦根市社協概要(予算・決算)、各種助成金情報、職員採用情報等

【総ツイート（投稿）数】241回（フェイスブックは連動）

② QRコードの活用

市民・団体が社協から発信する情報の取得を容易にするため、文書発送用の各種封筒にQRコードを印刷し、本会ホームページへアクセスしやすくした。

(5) 広報紙への会員情報等の掲載

平成29年度における賛助会費納入団体・施設名を、平成29年12月1日発行（第199号）の広報紙「社協ひこね」へ掲載し、会員としての意識付けを行うとともに、地域福祉への貢献活動を広く発信した。

衣装貸付事業（収益事業）

〈会計の区分〉拠点区分：衣装貸付事業／サービス区分：衣装貸付事業

1) 衣装貸付事業

地域福祉の推進を図るため、収益事業として衣装の貸付けを行った。また、生活保護受給者などの生活に困窮した方の自立支援の一環として、就職面接等に必要なスーツやネクタイ等の貸付料金を免除し、就職を支援した。併せて、新規・継続利用者の獲得のため、新たに衣装類の購入を図り商品の充実に努めた。

お客様にとって衣装が見やすく試着がしやすい環境を整えるとともに、来客時の効率化を図るため貸衣装室の一部レイアウト変更を行った。

桑名市社会福祉協議会（三重県）の貸衣装部門閉鎖に伴い、無償譲渡の申し出をいただいたことから、本会職員2名が現地へ赴いて譲渡物品の選定を行い、次年度の受け入れに備えた。

【衣装貸出状況】

（単位：件）

種類	貸出件数	種類	貸出件数
黒留袖	143	色留袖	19
訪問着・附下	29	振袖	10
喪服	8	草履・バッグ	177
略礼服	73	ブラックフォーマル	30
モーニング	133	ゲストドレス	132
紋服	44	洋装その他	139
スーツ(男女)	7	靴	37
男児スーツ	51	初着	36
女兒ドレス・スーツ	38	七五三衣装	53
子ども靴	72	その他、小物	181
合計		合計	1,412

【生活困窮者等への貸出件数】

2件

【新規購入衣装】

種類	購入点数	金額
留袖	1点	合計883,673円
色留袖	1点	
振袖	1点	
訪問着	1点	
帯	3点	
和小物	49点	

草履・バックセット	4点	
女性洋服	10点	
略礼服	6点	
洋装小物	32点	